

まったく怪しげな哲学入門

学々刊 七七のこりの学交 交夏 入呆 賢

7月はラストチャンス

4月からは百日が過ぎました。いろいろなことを試みて今のクラスがあるのです。自分のクラスが何かガサガサしていると気になるなら、子どもたちに7月はいい思いをさせて「快適な情動」を与えて夏休みを迎えるのが、教師にとっても、子どもにとっても一番のいいことなのです。クラスが心地よい、授業が心地よいと思わせる唯一の方法は、『力を合わせて満点とった』という経験を与えることです。それ以外の事も、それ以外の方法もあります。9月の立ち上がりもこのことで保障される一石二鳥の方法であり、教育の本質の取り組みなので、

学校教育の大切な目的は2つある。一つは学力づくりであり、もう一つは人への信頼や友情、社会道徳を身につけることだと。これの考えは正しい。しかし、教師は往々にして、学力は授業で、人への信頼や友情、社会道徳はお楽しみ会やゲームやその他の学校生活でと考えがちになる。ここが大きな間違いではないか。私たち教師は学校教育の本務である学力づくりで、学校生活の8割をしめる授業そのものの中でこそ、人への信頼や友情、社会道徳・・・即ち人を愛することを教えなければならないし、そのような方法を追求していくべきではないのか・・・と。

このように考えてみると、学力づくりにも授業づくりにも新たな視点や工夫が生まれ、クラスがキラキラとしてくるのです。教室の子どもたちをキラキラさせる要素は二つ。一つは先生に対する信頼、「先生のいうやり方でテスト勉強すると満点がとれる」もう一つは「お隣さんと力を合わせてテスト勉強すると満点がとれる」ということです。この信頼感を育てることが一学期の最大の課題です。7月はラストチャンス、クラスを挙げて取り組んでみましょう。

社会科で満点を取らせる

3・4年生の社会科は地域を探検したり、消防所や警察署の見学、クリーンセンターや下水道の学習など実際に現地に行つての学習やその事前学習、事後学習でも大変な教科です。5・6年では少し様子が変わりますが、実際のものに触れたり、ある単元を深掘していると、すぐに時間が経ってしまい、他の単元が垂れ流し授業のなってしまうということがおこってしまいません。

確かに実際の現場に出かけて行って、学習することは大切ですし、ある単元を深掘することも大切な教育だとは思いますが、テストでの成績が努力の割に芳しくないのが担任の嘆きの一つです。しかし、それ以上に残念な思いをしているのはきっと子どもたちなのです。

私は「学力づくりでクラスづくり」「授業づくりでクラスづくり」というテーマで研究を続けてきました。その根底には次のような考えがありました。

信頼される教師とは、子どもたちに努力を強いますが、それに見合う成果をあげさせる教師です。こんな教師こそが子どもから信頼される教師なのです。ではどうすればいいのでしょうか。

方法はいたって簡単です。通常通りの学習計画で授業や見学を行い、最後のまとめの所で、クラス挙げて「問題づくり」に取り組みばいいのです。

このやり方は、自分で教科書や副読本を読み、その内容を問いと答えにしておく方法です。人間の学習方法は2つしかありません。一つは丸覚え、もう一つがこの問いと答えに分けて記憶するという方法です。子どもたちには「中学生の勉強方法だ」と言ってみると俄然意欲が出てきます。

ノートを後ろから使って、ノートを二つに折って一番上に単元名と項目を書き、左側に問題を、その答えを右側に書いていきます。はじめは抵抗を感じる子がいたり、問いが長々と続いて答えが一言だったり、その反対の子がいたりなど玉石混淆の状態ですが、出来た問題を発表させて交流していくと、どの子もコツをつかんでいきます。

この方法は単に点数を挙げることに止まらず、子どもたちに「一人学習の方法」を身につけさせるという意義が大きいのでぜひ取り組んでほしいと思います。

『頼りになるのはお隣さん』の実践で愛を育む

ここからが大切な取り組みです。単にこれを「問題づくり」そして「テスト」というようにしてしまうと、学力づくりが個人の取り組みなってしまう、愛を育むことにはならないのです。「愛」とは「・・」のためにする労働」なのです。ここでお隣さんとペアで両方が満点をとる運動にさせなければなりません。

まず、自分の問題を答えを隠して覚えさせます。次にノートを交換して自分の問題をお隣さんに読んでもらって口頭テストしてもらいます。その次にお隣さんでノートを交換して、お隣さんの問題も覚えて、また口頭テストしてもらいます。このような取り組みを社会科のテスト勉強として、朝学習などで取り組みと教室中に満点をめざして勉強しようという空気が漲ってくるのです。

「お隣さんが満点を取るために問題を出してあげる」、人の成長のために何かすること、即ち「・・」ための労働」こそが「愛」なのだと感じさせることが、学力づくりでクラスづくりの要なのです。

ペア学習やグループ学習といっているような取り組みをしても、子どもたちがお互いの成長を願って、「ためにする労働」を行いその成果を実感できなければ、だんだんペア学習やグループ学習でスポイルされて輝きがなくなってくるのです。

その点この『問題づくり』による社会科満点大作戦』は実践的に証明された取り組みです。

クラスが何かガサガサしているならば、それは教室に愛が育っていないのです。好きなもの同士で愛を育むのはそう難しいことではありません。そうではなくて、私たちがめざすのは、たまたま隣になったお隣さんを一人のクラスメイトとして愛を育む取り組みをなんのわだかまりもなくできるということ。それが「学力づくりでクラスづくり」の魔法なのです。

ぜひ、試してみてください。